



2011.1.1発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



山王塚の晩秋 みごとなツルウメモドキが横たわる

これからの県の河川工事の市民委員は 公募となる？

11月6日に飯能、川越、朝霞の3県土事務所と市民との懇談会が、同じく県の総合治水事務所と水辺再生課の出席の下に行われました。3県土の今後の河川工事計画などの説明の後に行われた意見交換会で、市民から「今までの県の河川工事の検討会では、市民として地元自治会関係者しか声がかからず、我々川に関係する一般市民団体はお呼びでないことが多い」という指摘がなされ、今後の県の対応について質問がありました。

「多自然川づくり」における市民参加は国の方針として1990年以来進められて来たにもかかわらず、20年経っても埼玉県においてはそれが殆ど実行されて来ませんでした。

しかし、この席上では3県土とも「公募になじまない工事もあるが、今後は原則として市民委員は公募としたい」と発言があり、県水辺再生課からも「県に持ち帰って検討したい」という前向きな返事がありました。今後の県の対応を私たちは厳しく見守っていく必要があります。
 (小黒)



ゴンズイ

木々の葉が落ち尽くした感の12月の山王塚で、ゴンズイはまだ紅葉を残し、赤い実から、黒い種をぶら下げている。名前は、魚のゴンズイのように役立つ木の意味とされているが、諸説あり。

沢山の野鳥のお出迎え

12 / 2 不老川歩き「野鳥を見つけて歩こう」

初冬とも思えぬ程暖かく穏やかな日差しの中、常泉寺観音堂前に集まった5名、矢内氏を先頭に入曽橋より不老川左岸を下流に向かって歩き始める。足下は草もみじのよう。黄葉となって歩きやすい。

今日は野鳥観察。すぐに鴨の群が目に入った。「何を食べているの？」問いに、「水草でしょう」と矢内氏。「上流にはコガモも沢山いましたよ」と、また、「カルガモとマガモの合いの子を『マルガモ』と仲間内では言っているんですよ」と笑っておられる。カルガモは雄雌の区別がつきにくいとも。クコの実や葉をついばんでいるものもいた。

ヒューと飛んで長い尾をピクピク上下に動かすのが特徴のセキレイ。日本にのみいるセグロセキレイ。その名の通り、背がはっきり黒い。ハクセキレイは灰色っぽく、キセキレイは腹が



黄色い。季節によって色が濃くなったり淡くなったりするという。

ムクドリ、ヒヨドリ、オナガもギャーギャー沢山、樹から樹へ飛び交っている。明日は雨かなー。珍しくツグミが何羽も。シベリヤから渡り、11月から4月頃までいるという。シジュウカラ、ジョービタキ、キジバト、ハシボソカラス、スズメ達。

としとらず公園に行くと、改修工事のため、通行止めとなっていたが、右岸の茂みにウグイスの声。「チチ、チチ」と。春を待っているのだろうか。

僅か1時間余りの散策でしたが、15種類の鳥たちと出会い、矢内氏の楽しい説明に聞きながら思わず笑みがこぼれます。

この、のどかな風景が長く続いて欲しいものと思いながら不老川を後にしました。

(杉山千代)

当日見つけた野鳥

カルガモ	44羽
ハクセキレイ	5
セグロセキレイ	3
キセキレイ	6
スズメ	40~50
ムクドリ	30
ヒヨドリ	15
キジバト	2
ハシボソカラス	1
ジョウビタキ	1
オナガ	15
ツグミ	8
カワウ	1
シジュウカラ	1
ウグイス	1

ザリガニやメダカが取れたよ！

環境学習サポート 藤沢東小学校

今年も5年生の環境学習を2回に分けて行った。10月20日は不老川で魚類調査の予定だったが、雨のため室内で「GOGO不老川」と題したパワーポイントで不老川の成り立ちや水質、河川工事等について説明した。質問も多かったが、アユが東京湾から狭山市まで上がって来る話には驚いていた。

2回目は11月11日小春日和の中、家庭排水の流れ出る様子や水草の説明をしながら、不老川を大森調水池まで約4kmを歩いた。到着して池の役割りや成り立ち、注意事項等の話をしてから、子供たちは池に入ったり、植物観察等元気に飛び回っていた。季節的に遅かったので、トンボやバッタ取りはできなかったが、魚の取り方を知らない子供が多く、網の使い方を教えると、ザリガニやメダカが取れ、大喜びだった。ガマの穂はソーセージと喜んでいたが、因幡の白兔の昔話を知っている子供はいなかったことは、残念に思った。

帰りは靴がどろんこになったので、裸足で学校まで帰った子供や、お腹が空いたとへばった子供もいたが、全員無事帰校した。どういう体験をしたか、良い思い出になったか等、12月に行われる発表会が楽しみである。

学力低下が問題となり、ゆとり教育が見直されて、環境学習をおこなう学校が少なくなっているが、自然に触れることの大切さを見直すべきであろう。(相馬)



「人々が関心持ってこそ環境は守られる」

南小畔川「水辺再生100プラン」工事終了

小畔川は自然が残っている川といえるでしょう。水源は宮沢湖で周辺の湧き水などを集めながら水量は安定していて、洪水を起こすことも近年はありません。在来の魚類もいて、釣り糸をたれる姿も見受けられます。農業用水として整備されている面もあり、川沿いには水田地帯が広がっています。この様な川環境なのでドジョウやカエルもいて自然な感じなのだと思います。

この一角、川越線の笠幡駅から1kmの「河南橋」の周辺を子どもや市民が川辺に親しめる

淵
魚を
も作
棲っ
みて
やす
く



ようにという提案を、地元のEM有機農法のグループが出しました。川環境はよくても、なかなか水辺に降りるのは危険なのが最近の川土事情です。この提案が採用されて、地元自治会や学校長などの協議会が3度ばかり開かれ、アンケート調査などを踏まえて半年後には工事に着工し、この10月頃に完成しました。11月27日には大勢の参加でお披露目が行われ、「ウグイ」の放流などもありました。

提案の中心者に聞いたところ、地元を流れている川でも地域の関心は薄く訪れる人も少ない。人々が関心を持ってこそ環境も守られる、夏に向けて川に親しむ企画を地元の人とやりたい、ということでした。

小畔川には「小畔川の自然を考える会」という、魚の立場から川環境を調査しているマジメな市民団体があります（実は私もメンバーです...）ので連携して川を盛り上げていければと考えます。（川越在住 賀登環）

市と市民 協力してみどりを守りたい

林の間伐樹木選定に際して

狭山市のみどり公園課では、今年度、市内にあるふれあいの森や市民緑地の木の間伐することになりました。その説明会が11月4日に開かれ、森を管理している自治会や市民団体が集まり、それぞれの状況を話し合い、活発な意見交換が行われました。年に1度は市と市民の話し合いの場が持たれることが必要だということを確認され、市に要望しました。

間伐の木はそれぞれが選定することになり、山王塚市民緑地でも11月18日に40ヶ所ほどヒモで印を付けました。まず、外側の道路に近く、電線に触っている木を選びました。林の中ではただひょろひょろと伸びてしまい、樹肌を見て何の木かを判断するしか無いものも選びました。林の中心にあるイヌザクラもかなり伐ることになりました。今回の間伐で、林は日が射し込み、かなり明るくなるでしょう。

後日、見にいくと、ヒモが変えられていました。また、この森の象徴として大切にしているツルウメモドキの腹に黄色いヒモが巻き付けられていたのには驚きました。疑問に思って市に問い合わせると、職員と業者とで見積もりのために幹を計った時、枯れそうだと判断して付けたそうです。

今回の事業は、行政と市民が一緒に現場を見ながら話し合っ進めないと、考えかたの違いの溝が広がっていくように思えます。互いの考えを出し合いながら、行政と市民が協力して狭山のみどりを守っていきたいと思いました。（村手）

草繁る護岸を

としたりず公園再生工事中

埼玉県「水辺再生100プラン」の1つとして取り上げられた、としたりず公園の工事が11月から始まりました。

市民参加による3回の検討会を経ての事業です。決壊した箇所を整備し、階段下の石の流失や持ち出しを防ぐために、その石を固定するそうです。

市民からの提案で、その他の土手は、棲み着くようになった魚のためにも必要以上に手を加えないで、草が水辺に触れるままにしておくそうです。

様々な生物が棲むには、今の草繁る護岸はとても良い環境になっています。下流の土手の草むらにはもしかしたらカワセミがねぐらを作っているかもしれません。

3月には完成です。願ったような水



辺に生まれ変わるよう、工事を見守っていきましょう。

（村手）

我が町・入曽

菊谷信夫

毎年、清瀬市郷土博物館にて盛大な写真展を開催する、地元の写真クラブ「旭が丘写真クラブ」の会員のKさんから写真展の案内状をいただいた。

写真展のタイトルは『柳瀬川回廊』。市内を流れる柳瀬川をA・B・C・Dの四つのエリアに分割し、河岸を整備して市民の憩いの場とした情景を、六十点にも及ぶ写真で紹介したものであった。

四つ五つの写真を見始めて、私は何か胸にこみ上げて来るものを感じた。ただ単に市内を流れる川岸の姿を紹介するものではないと思ったからだ。展示された写真一枚一枚に「我が町を愛する心」みたいなものが伝わって来る感じであった。綺麗とか、素敵とか言う写真ではなく、我が町をこよなく愛する写真家（市民）の心が伝わってくる作品ばかりであった。一枚の写真では感じる事の出来ない重みすら感じた。こういうのが「写真のちから」なのだろうか。人の心を動かす『写真力』という言葉が存在するとすれば、こういうものだろうか。

巨大ベッドタウンとして開発された新所沢駅周辺、狭山市のキャピタルシティとして整備された狭山市駅周辺、その挟間で文明から取り残された入曽。このことに愚痴をこぼす住民の声は、大いに理解できる。しかし、我が町入曽には美しい森もあれば、美しい川（不老川）もある。この愛すべき自然こそが、我が町の貴重な財産ではないだろうか。

入曽に棲んで三十余年、「我が町・入曽」とはなにか？考えることもなく、私は年を重ねてきたことに気が付いた。

{ 流域情報 }

環境省「湧水保全・復活ガイドライン」 発表

今年3月、湧水についての「定義」「現況」「法令」等、湧水全般についての冊子を発表した。湧水の保全・復活に取り組もうとする団体や自治体を対象に、各地の事例を掲載したのだが、中に、「入間市の里山湧水」が掲載され、当会の「大森の池まつり」や「川づくり・まちづくりマップ」も紹介されている。

湧水保全フォーラム全国大会 in ひがしくるめ 開催

12月17日（金）、秋篠宮ご臨席の元に東久留米市において、第5回湧水保全全国大会が開かれた。東久留米市の市政施行40周年を記念し、同時に、東京都から唯一選ばれた「平成の名水百選」を全国に紹介する大会にもなった。全国から300人が参加した、たいへん有意義な大会であった。

おさそい

トークイベント Part 2

「不老川と生き物」

生物多様性を不老川で考える

鳥や魚、草花の側から

川を考えてみませんか？

2月26日（土） 13:30より

入曽公民館にて



山王塚で

シタケの駒うち

3月27日（日） 10:00

現地集合

ほだ木代 300～500円



川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日 13:30～

年会費：1000円 詳細は下記世話人まで

入間市 相馬 04-2965-1741

狭山市 村手 04-2957-3425

所沢市 小黒 04-2923-8946

川越市 高木 0492-43-9828

編集後記

10月川歩きで、桜のこずえにカメラを向けている紳士に遭遇。「何かいますか？」「シジユウカラです」。これが、日本野鳥の会の矢内さんと市民の会とのお付き合いの始まりです。川辺を歩くと良いことに出会います。土手深くから、まっかに輝くクコの実が誘っています。「クコ酒にでもいかが？」なんてね。 H.T